

研修報告

『介護保険関連研修』

◇テーマ：「緊急勉強会！！ MSW・支援相談員・ケアマネジャーが知っておくべき新しい総合事業最前線～介護保険制度改正の最新動向を踏まえて～」

◇講師：服部真治氏（一般財団法人医療経済研究・社会保険福祉協会医療経済研究機構
研究部研究員兼研究総務部次長）
(地域包括ケア研究会 委員)

篠田浩氏（大垣市福祉部高齢介護課 課長）

◇研修日：H30年1月20日（土）13:30～16:40

◇会場：安保ホール 301号室

◇参加人数：116名（会員：69名、非会員：47名）



アンケートコメント紹介

- ・先駆的に行っている市町村の事例紹介あり、私達の地域にもおきかえてできないか？という所を教え受ける事もできた。岐阜・名古屋・ハ王子等の比較もあり、イメージが出来理解しやすい内容でした。
- ・総合事業の本来の役割を学べたとともに、実際の名古屋市でのサービスに対する理解の不十分さに気づきました。それぞれの地域にあったサービス作りが必要で、MSWとしては、患者からニーズを抽出し、市町村へ伝えることも必要だと感じた。MSWも地域ケア会議への参加など地域に出て行くことをしていくといけないと感じた。
- ・介護保険というより、コミュニティワークについて学んだ気持ち。地域に出ていく、つながることへの興味や関心を思い出せた気がする。
- ・総合事業がこんなにもバリエーションにとんで取り組みをされていることを知りました。自由度の高いサービスで、自分の地域がどんな取り組みをしているか知りたいなと感じました。
- ・とてもわかりやすく学ぶことができました。介護保険の原点に立ち返り、専門家として支援させていただかないといけないな！と気持ちが引き締まりました。また、専門職として制度政策へ積極的に関わっていきたいと感じました。ありがとうございました。
- ・総合事業は理想論であって地域包括ケアは難しいと思っていたが、主体性・自由に決められる点が事業のメリットと伺い勉強になった。
- ・漠然と知っていた「総合事業」への理解が深まりました。利用者のニーズに重点をおいたサービスが増えたら良いし、自身でも貢献できることを見つけたいと感じました。
- ・「講師2人ともどのように、積極的に前向きに取り組める考えられるMSWが増えると良いなあ」と感じる程、魅力的だった。情報・方法研修でなく、心構えを教えられた。

研修を振り返って

委員長 石川将弘

今回の研修は、当委員会として「地域包括ケア」「総合事業」「介護保険改正」のテーマをしっかりと学べる機会となる様な研修を実施したいという思いで企画しました。このテーマの講師として、総合事業のガイドラインを作成し、作成段階から中心的な活動を行っていた服部真治氏を適任と考え、講師として依頼することができました。加えて、総合事業の実例をお話しいただく講師として篠田浩氏にも依頼することができたことで、研修の内容がより良いものになったと思います。

参加者の所属割合は、約50%が病院、約30%が老健、その他に地域包括支援センター・居宅介護支援事業所・行政等、多様な所属機関から参加してもらうことができました。

また、経験年数では、5年以上の参加者の割合が67%、更に10年以上の割合は43%と高かったです。中堅者やベテランの参加が多く、中堅者以上のニーズにもマッチした研修と評価できると思います。

研修後のアンケート結果から、「研修の満足度」と「興味の度合い」のポイントが高く、自由記述のコメントからも好意的な評価が多く、研修の主旨目的を果たす内容であったと思います。それぞれの職種が刺激を受け、特にソーシャルアクションを意識する参加者も多かったのではないかと分析します。